

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第6学年国語科学習指導案

単元名 「やまなし、私はこう読む」

～多様な視点をもとに解釈を深めよう～

学習材名 「やまなし」「イーハトーヴの夢」(光村図書 6年)

日 時：令和7年2月21日(金)5校時
児 童：大田区立洗足池小学校 第6学年2組 36名
担 任：大田区立洗足池小学校 主任教諭 長澤 元紀
指導者：足立区立青井小学校 教諭 青山 清志

1 単元の目標

- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。
〔知識及び技能〕(1)カ
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
〔知識及び技能〕(1)ク
- 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ ②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク	①「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 C(1)エ ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 C(1)オ	①進んで物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら読み、学習課題に沿って物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

児童はこれまでに、第5学年の「たずねびと」、「大造じいさんとガン」、第6学年の「帰り道」、「ぼくのブック・ウーマン」、「海の命」と、文学的な文章の学習を積み重ねてきている。その中で、「山場」「情景描写」「表現の工夫」「視点」などの読みの観点を獲得してきた。それらに着目し、叙述を比較したり関連付けたりすることで、作品に描かれた登場人物の心情の変化や場面の様子などを読み深めることができた。本単元では、文学的な文章の学習の集大成として、児童が自分でそれらの読みの方法を選択しながら読むことができるようにする。また、着目すべき点が多岐にわたる作品でもあるため、児童一人一人の多様な読みが生まれると考えられる。そのため、考えの交流を大切に、友達の読みからも考えを広げ、深めていけるような展開をしたい。最終的には、「やまなし、私はこう読む」と称して、児童が作品をどのように解釈したのかをまとめることとし、単元を通して自身の読みを確立していけるようにする。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材「やまなし」は、宮沢賢治の優れた表現を味わい深く読める文章である。比喻や独自のオノマトペ、豊かな色彩表現、五月と十二月の場面の対比など、着目すべき観点が多数ある。その中で、一読では物語が何を描いているのかが分かりにくいと感じる児童もいるだろう。児童は、「作者である宮沢賢治は何を伝えたいのだろうか」という思考になると考えられる。

そこで、作品を読み深める手がかりの一つとして、宮沢賢治の伝記的資料である「イーハトーヴの夢」を活用する。「イーハトーヴの夢」には、宮沢賢治の生き方や考え方が記されている。これを読むことにより、宮沢賢治の生き方や考え方と重ねて想像することで、「やまなし」に描かれている世界に宮沢賢治がどのような思いを仮託したのかと、読みを深めることができる。ここで、作者を知ることによって解釈につなげることができるという読みの経験をさせたい。

本単元では、導入で生まれた「何を伝えたいのか」という疑問から、「自分自身はどう読み深めるのか」を追究していく。対称的に描かれている表現を比較したり、宮沢賢治の生き方や考え方を受け止めたりして、読者としての児童自身が、この作品が何を伝えたいのかを考える。そして、その問いを追究していく中で、友達の考えと交流し、深めていく。そうした読みが、他の作品を読む力となると考えた。

(3) 単元について（単元観）

本単元の目標である、「物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。」を達成するために、「『やまなし』をどのような視点で読み、自分自身がどのように解釈したのかをまとめ、伝え合う」という言語活動を設定した。

単元の導入では、「二枚の幻灯」に着目し、「五月」と「十二月」の場面を「時期」「登場人物や物」「出来事」などの視点で大きく内容をつかむことで、対比構造に気付く。登場人物が「かに」であることや、「かわせみ」や「やまなし」が現れたりする出来事、額縁構造となっていることなどを確認する。そして、初発の感想から「『やまなし』は、何を伝えたい物語なのだろうか。」という学習課題を設定する。さらに、細かな疑問を共有・整理し、学習課題に迫るための問いを児童の言葉で立てていく。「かにたちの会話について」「やまなしについて」「かわせみについて」「周りの様子」「情景描写」など、様々な問いが出るのが予想される。そこから「中心人物としてのかに」「やまなし」「表現」と、大きくまとめて3つの問いを立てていく。

第一の「かにの兄弟について考えよう。」という問いは、かにの兄弟が暮らしている谷川の世界、かにの兄弟の心情、「かに」が「かわせみ」と比べると弱い存在として描かれていることなど、「かにの兄弟」という登場人物を通して、宮沢賢治が何を描いているのかという意味を包括している。この問いについて考えた後に、「イーハトーヴの夢」を読む時間を設定した。第一の問いで「かにの兄弟」について読んでいくと、かににとって「かわせみ」の登場という「こわいこと」が起きたり、「やまなし」が落ちてきて「おいしいお酒」となる「楽しみなこと」が起きたりすることが分かる。すると、児童は「何を伝えたい物語なのだろうか」という学習課題から、「宮沢賢治にとって怖いことや楽しみなことがあったのではないか」という思考になると考えられる。そこで、第一の問いの後に「イーハトーヴの夢」を読む必然性が生まれると考え、ここで資料として扱うこととした。第二の「『やまなし』の表現には、どのような意味や思いが読み取れるのか。」という問いでは、独特の造語やオノマトペ、色彩表現や比喻など、多様な表現について解釈する。最後の「題名『やまなし』に込められた意味や思いは何か。」という問いは、単元の終末で行う「『やまなし』

をどのような視点で読み、自分自身がどのように解釈したのかをまとめ、伝え合う」という言語活動につながる問いである。「やまなし」と「かわせみ」との対比や、なぜ題名が「やまなし」となっているのか、物語で起こる出来事にどのような意味があるのかなど、これまでの問いで考えてきたことを基に、物語全体について考えていく。

最後に、「やまなし、私はこう読む」として、『やまなし』は、何を伝えたい物語なのだろうか。」という学習課題に対する自分の解釈をまとめ、友達と伝え合う。

4 読むこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

文学的な文章における言葉による見方とは、物語などのエピソード（出来事）の展開としてのストーリーを理解するだけでなく、人物の会話や地の文における人物の行動や心情の描写や説明がどのように叙述されているか、人物と人物との関係、場面の情景、場面と場面との関係がどのようになっているか、人物像や作品の全体像がどのように形象化されているかに着目することであると考える。文学的な文章における言葉による考え方とは、虚構の形で表現された登場人物の心情や表現の効果などについて、叙述を基に比較したり、類推したり、因果を捉えたり、分類したりすることと考える。そして、文学的な言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

読むこと部では、言葉による見方を「読みの観点」、言葉による考え方を「整理・分析の方法」と呼ぶこととする。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

①学習課題への興味・関心を高める

文学的な文章の学習の集大成として、第1時ではこれまでに学習した読みの観点について、「情景描写」や「対比」などの既習事項を確認する。これまでの学習の積み重ねを自覚させ、多様な読み方で物語を解釈していくことを改めて押さえる。それに加え、「幻灯」や「やまなし」など、作品に出てくるものをスライドで紹介し、現代にあまり馴染みのないものについて児童が理解しやすくなるようにする。これにより、作品世界を少しでも視覚的に味わえるようにし、物語に興味・関心をもてるようにする。

また、導入で『やまなし』は、何を伝えたい物語なのだろうか。」という学習課題を設定することにより、これまで獲得してきた読みの力を活用して、自分たちで解釈していくという読む必然性を感じさせたい。そうすることにより、児童が主体的に学習に取り組むことができると考えた。

②児童が「読みの観点」と「整理・分析の方法」を活用できるようにする。

読むこと部では、「自立した学習者」を育成するためには、児童の「課題解決に向けて『読みの観点』『整理・分析の方法』を意識的に活用できる力」を高めることが必要であると捉えている。しかし、この力を高めるためには、児童が自分の学びを客観視できることが大前提となっており、高度な思考力が求められる。そこで、読むこと部では、児童の発達段階を踏まえ、低学年から段階的に「読みの観点」と「整理・分析の方法」を活用する授業を展開する。

【「課題解決に向けて『読みの観点』と『整理・分析の方法』を意識的に活用できる力」の系統性】

	低学年	中学年	高学年
めざす児童の姿	「本時のめあて」と、「読みを深めるために学級で取り組んだ活動」をつなげて学習を振り返ることができる。	学習課題の解決に向けて自分がどのような読み方をしたかを相手に伝えるために、提示された複数の「読みの観点」や「整理・分析の方法」から、自分が活用したものを選択できる。	学習課題の解決に向けて自分がどのような読み方をしたかを相手に伝えるために、自分が活用した「読みの観点」や「整理・分析の方法」について説明できる。

○教材分析表の工夫
別紙参照

○教師の支援の工夫

高学年では、中学年の学習を土台とし、自分の活用した「読みの観点」や「整理・分析の方法」を説明できる児童を育成する。そこで、本単元の第一次では、「心情」「情景描写」「山場」「比較」等の「読みの観点」に関する既習事項を確認する。授業の中で自分の考えを述べる際、それらの言葉を積極的に使うよう児童に促す。第二次の精査・解釈の段階では、自分の考えを書いたり話したりする際の話型を児童に配付したり、掲示したりして、児童が活用できるようにする。その上で、自分の活用した「読みの観点」や「整理・分析の方法」を説明できている児童の記述や発言に対して、具体的に価値付けすることで、学級全体に浸透させていく。

○振り返りの工夫（読みの足あと）

本単元では、児童の活用できる「読みの観点」や「整理・分析の方法」を増やし、次回の学びに生かせるよう「読みの足あと」を作成する。「読みの足あと」には、一時間の学習でどのように考えを導き出したのかをまとめることとする。この振り返りである「読みの足あと」は、毎時間の冒頭で教師が意図的に紹介し、児童の読みを価値付けていくようにする。また、そうして児童の多様な読み方を紹介することにより、児童が友達の読み方も真似したいと思えるようにし、友達のどのような読み方を真似してみたのかなども「読みの足あと」に記述していけるようにする。例えば、「○○さんは、今回の問いに対して、情景描写に着目し、そこから主人公の心情を想像していました。この物語には情景描写がたくさんあるので、次から気を付けて読んでいきたいです。」等の記述が考えられる。このように、他者の読み方に着目させて振り返ることで、自身の活用できる「読みの観点」や「整理・分析の方法」を増やし、中学校以降への学習につなげる。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。
(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

①児童一人一人が自分の考えをつくり出す言語活動を設定する。

単元のゴールは、「やまなし、私はこう読む」と題した文章を書く。ここでは、「読みの足あと」を活用して蓄積してきた二つの視点でまとめる。「観点面での自分の読み方」と、作品から受け取ったメッセージや解釈等、「内容面での自分の読み方」の二点である。「観点面での読み方」は、自分が着目した観点、例えば場面の対比に着目したら分かったこと、オノマトペに着目したら分かったことなどについてまとめる。

「内容面での自分の読み方」は、『やまなし』は、何を伝えたい物語なのだろうか。」という学習課題に対する自分の考えである。自分は「やまなし」という物語をどのように解釈したのか、例えば「題名になっているやまなしは、○○を表していると考え。なぜなら……」というように、第二次で問いを通して考えたことをまとめる。必ず叙述に根拠を求めた上で、自分自身の読み方を表現できるようにしたい。

②交流活動の工夫によって、新たな考えの発見につなげる。

第二次では、前述の3つの問いを解決するために読み深めていく。毎時間の初めには、まず児童一人一人が自分の考えをもつ時間を設ける。自分自身が着目した「読みの観点」と、「整理・分析の方法」を活用して考えを構築するために、十分な時間を取る。自身の考えをもつことができない児童が多いと、学級内で生まれる考えも同一のものが多くなったり、児童から出される意見が少なかったりと、交流活動が成り立たなくなる。そのため、児童が自分の考えをもって交流に参加できるようにしたい。

その後、まずはペアやトリオなど、少人数で自分の考えを伝え合う。これは、個人で考えた自分の解釈を友達に向けて言語化することにより、改めて客観視したり、再確認したり、説明したり質問に答えたりすることによって深めていくためである。

その後、学級全体での交流を行う。教師はなるべく多様な考えを児童から引き出すようにし、様々な読み方があることを共有する。その際、児童がどのような「読みの観点」や「整理・分析の方法」を活用したのかも価値付け、読みの力を自覚できるようにしていく。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

①言葉の特徴や使い方を意識できる活動を通して言語感覚を養う。

獲得した言葉の力を日常的に活用し、言語生活を豊かにしていくために、自らがどのような活動を通して、言葉や叙述に対して自分の考えを再構成したのかを「読みの足あと」で振り返らせる。友達と話し合ったり、再度文章を読み直してみたり、作者の生き方と関連付けて考えたりすることを通して、どの方法で新たな考えをもつことができたのかを考える。この単元を通して、自らの学び方を認識し、国語のみならず他の教科の学習においても自分の学び方を豊かにすることが、言語生活を豊かにすることにもつながると考える。

②関連図書を紹介し、読書を促す。

「やまなし」と「イーハトーヴの夢」を読み進めていく中で、宮沢賢治の世界観に着目して物語を読む児童もいると考える。そこで、教室内に関連図書を置き、いつでも宮沢賢治作品に触れられるようにしていく。「やまなし」の学習の前後にも提示しておくことで、宮沢賢治についてさらに知ることができる環境を整え、作者特有の世界観があることを理解させる。そして、宮沢賢治作品の面白さを感じながら学習し、児童の読書の世界を広げていくことができるようにしたい。

6 単元計画 (全7時間)

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一 次 構 造 と 内 容 の 把 握	1	1 既習事項を振り返る。 ・「心情」「山場」「情景描写」「表現の工夫」などこれまでの学習で身に付けてきた読みの観点を振り返る。	○パワーポイントで端的に示し、短冊等で掲示していつでも見られるようにしておく。	
		「やまなし」を読み、初発の感想をまとめよう。		
		2 「やまなし」の範読を聞き、初めて聞いた印象を話す。 3 内容を整理し、文章全体の構造を把握する。 ・「季節や時間」「中心人物」「出てくるもの」「出来事」などを整理し、場面ごとの内容を大まかに押さえる。 ・分かることと分からないことを確認しながら学習課題を考える。	○「分からない」というつぶやきを拾い、今までの物語文との違いを印象付ける。 ○内容としては単純だが、意味することや、何を伝えたいのかが分からないという作者の意図への疑問にたどり着くようにする。 ○五月と十二月の対比構造に気付けるよう、児童の発言を構造的に板書する。	
		【学習課題】 「やまなし」は、何を伝えたい物語なのだろうか。		
		4 初発の感想をまとめる。 ・疑問、みんなで考えたいこと ・現時点での学習課題についての自分の考え(解釈) ・学習課題に迫るために何を読むか ・単元で身に付けたい力	○どのようなことを考えれば問いに迫れそうか、自分の解釈を深められそうか、と投げかけ、問いにつなげていく。 ○数名に現時点での解釈を発表させ、そこから深めるにはどうすれば良いかを考えさせる。	

			○初回なので解釈は「分からない」でも良いことにする。
第二次 精査 解釈 ／ 考え の 形成	2	1 前時の振り返りをする。 ・学習課題「何を伝えたいのか」について多様な視点で読み、考えることを通して、自身の解釈を深めるという単元のゴールを確認する。 ・初発の感想や出てきた疑問を紹介する。	○「やまなし、私はこう読む ～多様な視点をもとに解釈を深めよう～」という単元名を示し、物語に対する自身の解釈を深めるという単元のゴールを確認する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> みんなの疑問を整理して、「やまなし」の物語を読み深めるための問いを立てよう。 </div> 2 問いを中心に初発の感想についてグループで交流する。 ・出ている問いや読みたい課題の中で、単元の学習課題に、より迫れそうなものは何かを話し合う。 3 全体で考えたい問いを短冊に書き、黒板に貼っていく。 4 全体で話し合いながら問いを取りまとめていき、学習計画を立てる。 C「やまなし」と「かわせみ」は何を暗示しているか考えたい。 C オノマトペについて考えたい。 C 色が表す意味について考えたい。 C オノマトペや比喻、色は「表現の工夫や効果」でまとめられそう。 5 本時について振り返る。	
	3	1 前時までの振り返りを行う。	○前時で取りまとめた問いを振り返り、「かに」に位置付けた問いを確認する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> かにの兄弟について考えよう。 </div>	
		2 問いに対しての自分の考えをもつ。 ○かにの兄弟の行動や様子、五月と十二月の変化や成長、情景描写など叙述を基に学習課題に迫れるよう読みを深める。 〈補助発問例〉 ・かににとって、谷川の底はどのような世界か。 ・物語の中で、かにはどのような存在か。	○かにの行動や様子などの単純な叙述から、作品中でのかにの存在や作者の意図など、課題に迫っていくように必要に応じて補助発問をする。

・かにを中心人物にすることの意図や効果は何か。

3 ペアやトリオなどの少人数で、自分の考えを伝え合う。

4 学級全体で考えを共有する。

○友達と自分の考えと、読みの観点を比較したりつなげたりする。

○かには弱い存在だと思った。

○でも十二月では成長もしている。

○かにを中心にしたのは、弱い存在の成長を書きたかったからではないか。

○作者が、かにや小さい生き物を好きだったのでは。

○この物語だけでは分からない。

5 交流を踏まえ、自分の考えを再構成する。

○かにの成長物語と思っていたけれど、もっと深い意味がありそうだ。

○かわせみは何か事件や戦争などを暗示しているのかも。

6 本時について振り返る。

○「読みのあしあと」をまとめる。

○五月と十二月の兄弟の会話を比較したことで、幼かったかにたちが成長していると分かった。

○落ちてくるものに着目した。かにの視点にすることで、かわせみの残酷さが際立った。

○○さんのかわせみとやまなしを比べて読むのは良いと思う。

○宮沢賢治について知れば、手がかりになりそう。

○自分の考えを音声化して友達に伝えることで、考えを再確認したり、質疑応答を通して深めたりすることができるようにする。

○交流の際に共有するポイントを確認する。必要に応じて話型や例なども示す。

〈例〉

・どの問いについて

・どの叙述や描写に着目して

・どこと比較して

・どのように考えたか

○作者について誰も言及しない場合は、「分からない」「決まらない」という意見を取り上げ、何が分かるとよいか投げかける。

○改めて自分の考えをまとめる。交流で新たに得た視点や、自分の考えの深まりや変化について、その根拠となった叙述や友達の考えなどを踏まえてまとめる。

○「読みの足あと」を書く視点を共有する。

〈例〉

・本時の問いに対する最終的な考え

・初めとの変化やその理由

・読みの観点や整理分析の方法

・真似したい友達の読み方

・現時点での学習課題への考えや物語への解釈

・今後考えたいこと

○時間に余裕があれば「イーハトーヴの夢」を一読する。

〔主体的に学習に取り組む態度①〕

ワークシート・発言

・進んで物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら読み、学習課題に沿って物語を読んで考えたことを伝え合おうとしているかの確認

<p>4</p>	<p>1 前時を振り返る。 かについて分かったことと、解決しなかった問いを整理する。</p> <div data-bbox="338 309 1145 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>資料「イーハトーヴの夢」を読み、「やまなし」を読み深める手がかりを見つけよう。</p> </div> <p>2 「イーハトーヴの夢」を読み大まかな内容を全体で整理する。 内容が「①賢治の人生、経歴」「②影響した出来事」「③理想、思想」「④他作品」に大きく分かれていることを捉える。</p> <p>3 「イーハトーヴの夢」から「やまなし」につながることを見付け、物語への解釈を深める。 C かわせみは賢治の経験した自然災害を示していると思う。 C 幼いころ小さくて弱かった自分を重ね、かの子を中心にした。</p> <p>3 本時について振り返り、「読みの足あと」をまとめる。 C 宮沢賢治のことを知ったら、かみや物語について解釈が広がった。 C 作者を知ることが物語の理解につながるのだな。</p>	<p>○五月と十二月の会話や出来事への反応などから、かへの存在や変化は分かって、作者の意図には迫り切れないことを確認する。</p> <p>○できる限り児童の言葉で内容や視点を整理する。 ○資料の全てを細かく読むのではなく、①～④の中で自分が着目する視点とすることを決めて読むよう促す。 ○視点を複数選び、つなげる児童がいたら全体に共有し価値付ける。</p> <p>○作者を知ることが、問いの解決や作品の解釈につながったかを必ず確認する。</p>
<p>5</p>	<p>1 前時を振り返る。</p> <div data-bbox="338 1227 1145 1317" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「やまなし」に出てくる表現から、どのような意味や思いが読み取れるのか。</p> </div> <p>2 本時の問いに対しての自分の考えをもつ。 ○表現にどんな工夫を感じるかを考え、自分が決めた視点で読む。 C 独特なオノマトペを考えたい。 C 色がたくさん出てくるから意味がありそう。 C この比喩はどういう意味だろう。</p> <p>3 ペアやトリオなどの少人数で、自分の考えを伝え合う。</p> <p>4 学級全体で考えを共有する。 C 五月は「鋼のよう」「鉄色」という固くて暗い感じ、十二月は「白」「やわらかな丸石」という優しくて明るい感じがする。</p>	<p>○「イーハトーヴの夢」からつなげた読みを掲示しておく。</p> <p>○苦手な児童のために、「オノマトペ」「比喩」「色彩表現」などの主な表現の工夫を全体で共有する。 ○複数の視点をつなげて考えてもよいことを伝え、できている児童がいたら取り上げて価値付ける。</p> <p>○自分の考えを音声化して友達に伝えることで、考えを再確認したり、質疑応答を通して深めたりすることができるようにする。</p> <p>○初めは五月と十二月の対比する内容を取り上げている児童を意図的に指名する。 ○児童が表現のつながりや五月と十二月の対比構造を捉えられるよ</p>

〔知識・技能①〕
ワークシート
・文章の構成や展開、文章の種類とそ
の 特 徴 に つ
い て 理 解 し
い る か の 確 認

<p>C かわせみは「ぎらぎら」で怖さを、やまなしは「きらきらっ」で美しさを表して対比になっている。</p> <p>C やまなしの「トブン」はあまり聞かないオノマトペだ。</p> <p>5 自分の考えを見直し、再構成する。</p> <p>C 「トブン」を普通の「ドボン」と比べるとより優しい感じがする。</p> <p>C 十二月の情景描写は「青白いほのお」「金剛石の粉」など、すごく美しい。</p> <p>6 本時について振り返り、「読みの足あと」をまとめる。</p> <p>C 自然の恐さや美しさを表す表現が多かった。</p> <p>C 「イーハトーヴの夢」で感じた「自然への愛」とつながる。</p>	<p>う、意図的に板書を工夫する。</p> <p>○ 叙述と結論だけでなく、整理分析の方法が分かるよう色分けする。 (整理分析の方法の予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他では使われない表現 「かぶかぶ」「トブン」「光のあみ」 ・普通とは使い方が異なる表現 「ぼかぼか」 ・対比になっている表現 「日光の黄金」「月光のにじ」「青く暗く」「青白い」 ・同じものを表す表現 「天井をすべる」「サラサラ」「ゆらゆら」「ぼかぼか」→水の流れに関わる <p>○ 考えの変化や読みの観点と整理・分析の方法でなど、前述の視点を意識して振り返る。</p>
<p>6 本時</p> <p>1 前時までの振り返りを行う。</p> <div data-bbox="363 1086 1125 1153" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>題名「やまなし」に込められた意味や思いは何か。</p> </div> <p>2 本時の問いに対しての自分の考えをもつ。</p> <p>3 ペアやトリオなどの少人数で、自分の考えを伝え合う。</p> <p>4 学級全体で考えを共有する。</p> <p>C 「五月」と「十二月」のかにの兄弟の行動を比べたら、「やまなし」と「かわせみ」に対する思いの違いが分かった。かわせみは恐れているが、やまなしに対しては喜びが読み取れる。</p> <p>C 色彩表現に着目すると、五月やかわせみは暗く、十二月ややまなし</p>	<p>○ 「読みの足あと」を紹介し、表現の工夫に着目して解釈を深める読み方を価値付ける。</p> <p>○ これまでの問いで考えてきたことを基に、読みの観点や整理分析の方法を活用して自分の考えをもたせるようにする。</p> <p>○ 題名が「やまなし」となっていることの意味や、果実としての「やまなし」そのものに込められた意味や思いを考えさせる。</p> <p>○ 自分の考えを音声化して友達に伝えることで、考えを再確認したり、質疑応答を通して深めたりすることができるようにする。</p> <p>○ 考えの共通点や相違点を見付けさせたり、根拠となる叙述について確認したりして、児童が活用した読みの観点や整理分析の方法を価値付けながら、板書にまとめていく。</p> <p>○ 本時の問いは、次時の活動につながるものであるため、個人の考えの再構成の時間は取らず、全体共</p>

〔知識・技能②〕
ワークシート
・比喩や反復などの表現の工夫に気付いているかの確認

〔思考・判断・表現①〕
ワークシート
・「読むこと」において、物語の全体像を具体的に相応したり、表現の効果を考えたりしているかの確認

	は明るく描かれている。	有の時間を十分に確保し、より多くの考えを取り上げる。	
	5 本時について振り返る。	○自分の考えと、その考えはどのような読みの観点と整理・分析の方法で考えたのかを振り返り、「読みの足あと」にまとめさせる。変化した考えや、友達の読み方からの学びも書くようにする。	
第三次 考えの 形成/ 共有	7	これまでの学習を踏まえ、学習課題や物語の解釈について自分の考えをまとめ、伝え合おう。	
	1 「宮沢賢治」や「やまなし」についての考えをまとめる。 ○「読みの足あと」や掲示物を見返し、学習課題に対する自身の考えや物語の解釈を文章に表す。 ○この物語からは、自然の二面性が伝わってくる。自然をおそれ、大切にしてほしいのでは。 ○かわせみに怯えても、やまなしという希望を追い続ける弱い存在ならではの強さを描くことで、困難の中でも楽しさを見つけるといふ賢治の理想が伝わる。 ○五月は賢治が警告する「合理化する世の中」で、十二月が「賢治の理想とする」世界。だから題名が「やまなし」の方なのでは。	○これまでに読んできた「かに」「イーハトーヴの夢（宮沢賢治）」「表現」「やまなしの意味」など、根拠を明確にして、自分は改めてどう考えるかをまとめさせる。 ○初発の感想と本時でまとめた文章を読み比べられるシートを用意し、読みの深まりが自覚できるようにする。 ○書き方が分からない児童のために、本単元で目指す解釈として ①最終的に物語から何を感じるか ②作者のどのような思いを感じるか ③どの部分をどのように読んで考えたのか を書くよう伝える。可能なら ④変化した読みや新たな考えも書くといふことを伝える。	〔思考・判断・表現②〕 ワークシート ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめているかの確認
	2 考えを共有する。 ○ペアやグループで読み合い感想を伝え合う。 ○数名、考えを全体に発表する。	○自分の考えをもつことに重点を置き、明らかな誤読以外はどのような解釈も受け入れるが、より多様な視点や複数の叙述から考えられるといふことを伝え、そういった児童を指名して発表させる。	
	3 単元全体の学習を振り返り、この単元で身に付いた読みの力についてまとめる。	○振り返りの視点を基に、単元での自身の変化や成長をまとめる。 ○「作者」という読みの視点は新出であるので、全体で確認する。	

7 本時の学習（6/7）

(1) 本時のねらい

「やまなし」に込められた意味や思いについて考え、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時の振り返りを行う。</p>	<p>○「読みの足あと」を紹介し、表現の工夫に着目して解釈を深める読み方を価値付ける。</p>	
<p>題名「やまなし」に込められた意味や思いは何か。</p>		
<p>2 問いに対しての自分の考えをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○読みの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現 ・情景描写 ・作者の生き方や考え方 ・会話、行動 <p>○整理分析の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～をつなげる ・～を比較する ・～をまとめる など </div> <p>3 ペアやトリオなどの少人数で、自分の考えを伝え合う。</p> <p>C かわせみと対比して考えると、やまなしは「平和」を表していると思う。</p> <p>C 「イーハトーヴの夢」で賢治が体験した、自然の恐ろしさとすばらしさを五月と十二月で表していると思う。「やまなし」が素晴らしさで、題名にもしている。</p> <p>4 学級全体で考えを共有する。</p> <p>C 私は、「やまなし」に込められた意味や思いについて考えるために、「五月」と「十二月」のかにの行動を比べました。「五月」のときは、上から飛び込んできたかわせみを怖がってふるえるという行動をしているけれど、十二月のときは、上から落ちてきたやまなしを、「いいにおい」と言って追いかけていくという行動をしています。そこから、やまなしは賢治が追いかけた理想のような存在で、「イーハトーヴの夢」を読んで分かったこととつなげて、自然の恵みを表していると考えました。</p> <p>C 私は、情景描写に着目しました。かわせ</p>	<p>○「やまなし」や「イーハトーヴの夢」の叙述に即して、読みの観点や整理分析の方法を活用して自分の考えをもたせるようにする。</p> <p>○題名が「やまなし」となっていることの意味や、果実としての「やまなし」そのものに込められた意味や思いを考えさせる。</p> <p>○自分の考えを音声化して友達に伝えることで、考えを再確認したり、質疑応答を通して深めたりすることができるようにする。</p> <p>○考えの共通点や相違点を見付けさせたり、根拠となる叙述について確認したりして、児童が活用した読みの観点や整理分析の方法を価値付けながら、板書にまとめていく。</p> <p>○本時の問いは、次時の活動につながるものであるため、個人の考えの再構成の時間は取らず、全体共有の時間を十分に確保し、より多くの考えを取り上げる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <p>・『やまなし』に込められた意味や思いを捉えるために、表現を比較したり、叙述から類推したりしている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔思考・判断・表現①〕</p> <p>ワークシート</p> <p>・「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかの確認</p> </div>

<p>みのくちばしは、「青光りの」「ぎらぎら」という冷たい表現で描かれているけれど、やまなしは「きらきらと黄金のぶちが光る」と明るい表現になっています。ここから、やまなしはかにとつての希望や喜びの存在なのだと考えました。</p> <p>5 本時について振り返る。</p>	<p>○自分の考えと、その考えはどのような読みの観点と整理・分析の方法で考えたのかを振り返り、「読みの足あと」にまとめさせる。変化した考えや、友達の読み方からの学びも書くようにする。</p>	
---	---	--

(3) 板書計画

やまなし

題名「やまなし」に込められた意味や思いは何か。

読みの観点

- ・表現
- ・作者の生き方や考え
- ・情景描写・行動、会話

↓

- ・つなげる
- ・比較する
- ・まとめる

五月

クラムボンの死

魚

「かわせみ」

「こわい」

十二月

「おいしそう」

かに

賢治の理想

賢治の理想

「やまなし」

鉄砲玉

コンパス

鋼のよう

敵

おだやか

白い

黄金

幸せ

賢治の生き方や考え方

現実

- ・災害
- ・妹トシの死
- ・農業
- △不作

理想

- ・幸せの象徴
- ・家族
- 他作品「よだかの星」など

「苦しみ」の中から

↓

「喜び」を見いだす

五月の出来事

「やまなし」に込めた

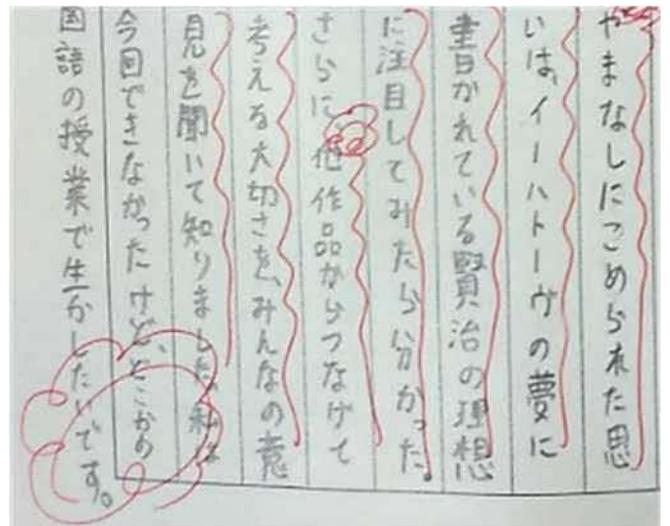
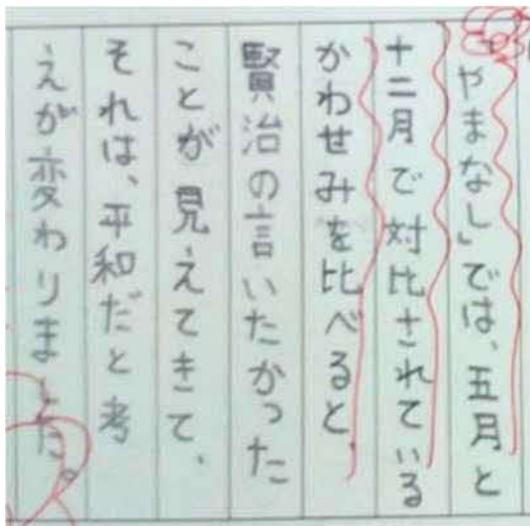
追いかける「理想」

「読みの足あと」

- ・児童の考えをまとめる

8 資料

〈読みの足あとの例〉



〈第1時で提示するスライドの一部 例〉

1 既習事項を振り返る学習活動

- ・「心情」「山場」「情景描写」「表現の工夫」などこれまでの学習で身に付けてきた読みの観点を振り返る。

《国語の用語の覚えているかな? その3》

【情景描写】 場面の様子や、登場人物の気持ちが表示されている表現のこと。

情景とは、心情と景色が一体になったもので、

- ①場の様子(風景)を表す。
- ②登場人物の心情を表す(心を象徴する)の2つの意味がある。

《例文》

四年生: ござつね「青いけむりがまだつつ口から細く出ていました。」
➡ 青いけむり→さびしさ、細く→命が消えていく感じ

五年生: 大造じいさんとガン「東の朝が真っ赤に燃えて朝が来た。」
➡ 残雪をやっつけてける、心が燃えている、闘志

《国語の用語の覚えているかな? その4》

【対比】 二つのものを比べること。
その目的は、二つのものの共通点と相違点を明らかにすることによって、それぞれのものの特性をはっきりさせることにある。

四年生「一つの花」

《戦争中》	対比関係	《戦争後(平和)》
① 一輪のコスモス		① コスモスのトンネル
② 「一つだけちょうだい」		② 「お肉とお魚どっちがいい?」
③ お父さんいる		③ お父さんいない
④ ゆみ子 幼い		④ 小さなお母さん
⑤ 配給(かぼちゃ、いも)		⑤ 選択(お肉とお魚どっち?)